

【経営の概要】

- 平成元年、農事組合法人●●生産組合設立(構成員：5名)。
- 同年、新農業構造改善事業を活用した、省エネルギーモデル温室が完成。
(鉄骨ビニルハウス：10棟9,936㎡：ロックウール栽培、4段変温制御、内張カーテン(2軸2層)の開閉制御等)
- 同年秋より、カーネーション栽培を開始し、現在に至る(構成員：3名)。
- 当園のカーネーション栽培は、秋から母の日にかけて出荷する冬春切り栽培。
- 冬期は重油を使用した加温ボイラを使用。近年の重油高騰を受け、品質や収量を落とさずに燃料費を削減できないか検討を行なった。

【対策の内容】

- 細長い大型ハウス(8m(間口)*6.3m(奥行)*2連棟)であることから、暖房時に温度ムラが発生しやすく、低温部分の温度確保に無駄な燃料を使用したり、生育遅滞の原因となるため、この対策として循環扇の設置を検討し、平成18～19年に導入した(2または4台/ハウスで1棟当たり4または8台)。
- 併せて、燃油使用量を削減するため、保温性に優れた内張カーテン(アルミ蒸着、不織布)の設置を検討し、平成18～19年に導入した(内張りカーテンは遮光も兼ねているため昼間の開閉が必要だが、当園では既在の装置で対応できた)。
- 循環扇及び内張りカーテンの整備に当たっては、
Aハウスの導入事例《工事費(概算)(10aあたり)》
循環扇：280千円(工事費込)、内張カーテン：560千円(工事費込)
- 個々の農家での対策として、暖房機のメンテナンス(缶体清掃、空気量調節、ノズル交換等)、チェックシートをもとにした施設毎の点検(気密性の向上等)、生育にあわせたハウス温度管理(変温管理等)を実施。
- これらの省エネ対策を実施した結果、従来どおりの設定温度でも燃油使用量を削減することができた。
- さらに一部の農家では加温設定温度を従来の13℃より下げた加温を行っても品質・収量を落とさずに燃油使用量が削減できた。

【対策の実践効果】

- 具体的な結果は、現在検証中(生産者の達観としては、重油の節約につながったとの印象)。
- 対策を実施したことに対する生産者の満足度は高い。
- カーネーションにとどまらず、周辺の花き生産者への波及が期待。

【今後の課題】

- 今回、省エネ対策として循環扇や内張り資材を導入したが、導入する省エネ対策によってはまとまった投資金額が必要となる。そのため、新たな省エネ対策設備の導入に当たっては、費用対効果を十分に考慮することが必要である。(当園の場合、若い経営者及び後継者が存在することも、導入の理由の一因だった。)
- 内張りカーテンの耐用年限は5年。劣化に伴う更新が必要なことから、今後は定期的な設備投資が発生。循環扇を含め新たな生産コストが増加。
- 今後も引き続き、燃料費を含めた経営費の削減対策が必要。

【問い合わせ先】